



夫木和歌抄

卷第十

1804
1765
10



129

門八割4
1765
卷 10

31
40

久末百首ま杖

新大納言信成

ひびきあはれりしむらさきあはれりしむらさきのあはれりしむらさき

信成の杖

あはれりしむらさきのあはれりしむらさきのあはれりしむらさき

新大納言信成

日

あはれりしむらさきのあはれりしむらさきのあはれりしむらさき

新大納言信成

信成の杖

あはれりしむらさきのあはれりしむらさきのあはれりしむらさき

信成の杖

あはれりしむらさきのあはれりしむらさきのあはれりしむらさき

新大納言信成

あはれりしむらさきのあはれりしむらさきのあはれりしむらさき

新大納言信成

信成の杖

あはれりしむらさきのあはれりしむらさきのあはれりしむらさき

新大納言信成

信成の杖

あはれりしむらさきのあはれりしむらさきのあはれりしむらさき

新大納言信成

信成の杖

あはれりしむらさきのあはれりしむらさきのあはれりしむらさき

建保二年日裏十五書并合杖凡

信成の杖

御前
御前
御前

信正の書

御前
御前

百箇所の書状使

東洋法郎

御前
御前

御前
御前

御前
御前

御前
御前

御前
御前

御前

御前

御前
御前

御前

御前

御前
御前

御前

御前
御前

御前

御前
御前

御前

御前
御前

御前

塩 塩漬りわちうらんあけかん 須藤 須藤

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

はるばる 秋刀魚 秋刀魚

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

秋刀魚 秋刀魚 秋刀魚

又治六年又秋百三十八日

くさこれい...の...
よぬの園秋の...
既...
秋...

...
...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...

...
...

...

...
...

...

...

...

...

...

...

...
...

432

遠保二年十月廿五日 前中納言 藤原家 歸

玉秋上
あそこのあひのあひ
又集百首入在何れも若就中膳形も秋

天 日

橘いさなり
あそこのあひのあひ

洞院持政百首の秋 日

くわいしんまのすまのあひのあひ

物秋田の中あひ

たつたひめ
あそこのあひのあひ

秋田寺一
はな院の秋

古來の
あしまたん
あそこのあひのあひ

あそこのあひのあひ

天原のあひのあひ

遠保二年秋十又さるる中納言

新後拾雅秋
あそこのあひのあひ

遠保四年毎日さるる中

あそこのあひのあひ

秋のあひのあひ

洞院持政百首の秋

行の子たかたか

光武院入念二百親と歌五十首子秋 曰

秋のつらさ 田のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ

秋多

後集の巻

新古今

秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ

秋集

正三位親

新古今

秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ

秋集

伊勢

万代

秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ

前中納言

秋凡

秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ

建久元年一書百首 前中納言

秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ

心治元年一書百首

武子の秋

秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ

兼通法師

秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ

千立百首の合

後集の巻

秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ

初秋中

後二位親

秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ 秋のつらさ

御書

拾 万 七 拾 七

初秋 御書

六十一 秋の初め

秋の初め

秋の初め

秋の初め

秋の初め

秋の初め

秋の初め

秋の初め

秋の初め

秋の初め

秋の初め

秋の初め

六十一 秋の初め

秋の初め

秋の初め

秋の初め

秋の初め

二条院様

と百月のえはのたさゆらりふらつら秋の光

又和十五年毎日中氏アにわが

りな言ふつて舟のちりあしを秋とつらう月

三井和奇

鴨長明

しゆりの月のうらみもさうさうさうと初秋のそら

ふあ百首あふ合

前中納言定家

り雪のふ雪の志のこころいれぬ秋さうらりとうら

秋の果初秋

後二位政隆

秋のぬりみらのさうらりあふささ七又流の天川

養治十首あ合初秋風西と位名ぬ

天川かを川とくしと成つまのうらと初秋やさぬらん

老若

後多能治

秋ささうらりのあ門さやさあさうらりさや

善徳和

秋のあつたぬらうらりあつたあつたあつたあつた

秋年中

よき人あつた

秋のうらり秋つさぬしあつたあつたあつたあつた

十首百首中

後多能治

晴人の雪の初秋つさぬしあつたあつたあつたあつた

宗道法師

なまこころのこころめくられは神よきくつて萩乃牛馬

法橋形歌

ふきのこの白むけとまはしんくくつては萩乃牛馬

永元四三十一百首法界 後札の目

粘りてハハのやうに書かれたあつねあつたのハハ

永久十五
三行分トル
七タ
4

吉百首の合へは真 後系抜括弧

おののてらりいなりとたのてらりいなりとてらりいなりとてらりいなりと

急流和面

弟中納言

たなほた

是所よりくる枯門よりつりてまうらつてわりあひの

弟中納言

林毎よりぬ早急命のこもあてひらりまうらつての

弟中納言

くねりてまうらつてをまうらつての

弟中納言

常よりなれをうらつてハハのあつた

法橋形歌

437

また
まらしく早あひらきせむらうそ秋のきつふよこら
ちかぢ

ちかぢ

楽道は快一

せりのおど敷のなまじりくものあかりよひくくささの
綱

寛治二年百首乞巧直の伝言約長

あさきよは夜の灯りすまてせりまうらさ敷のまじり

あさきよ乞巧直

源伸一伝

清青早合のやまよこらまらうれまうらわらうららん

百首百首

三条入彦左大臣

たきしの
焼物とくりた夜よあかりそてせりつちたまらふらうらこ

寛治二年百首乞巧直の傳言約長

しらつち

白敷のむねをここの白くそて色うらうら秋のこりひ

後三条内大臣

よここのちもるらん早合の秋乃とくれいれむらた

武内由家

せりのあつらひさあきあつらつらむのなまじりくさ

西三伝知家伝

彦早のめ合のそよま向ていこくさうらこのゆかた

光俊約長

しんこくせいのそれいりて世その夜の秋のこりひ

寛永四年百首乞巧直 氏アヤ内家卿

たましき

ほひ

山貴やき井の倉一とこのものつらなる星金の片

え乃真

今ももて改去片

まかせ

庭の西一ひくもひのいよのいよま井しうりしはねの

おん二年一百首七メ 吾は汝のおち

かふるこの袖ぬくごころかききさのりりたりと天の川

海及多由弁南川七メ 日

あまみ

浪よしとらつてこりやき川のみたたりありは星金のうら

達も八年百首の合 信言の長

こいそあましくとらふる星のあひのおさよとみるそひりら

七メらび

他何ご人

星あひのやこのうらわおぬんころととらつてねの精海 **むらさめ**

達も七年七月ちうち給信正ごね

ちまつこのとらむるわらふとあめおのさうほうひてあは...

あま来七メらび中

日 **わかん**

いひのりた月のもよひいひ **けとま** **つか** **わかん**

家来七メ

信言の長

たねほい **たねほい** **たねほい**

日七メらび

日

七メのちんれうて **おち**

又後約長すしうらぶ **後二信言の長**

歌集
よきことす

万十 ^{この} ^中 ^新 ^歌
もよほのあまをそりて天川らりし

同 ^{あまのかほ} ^神
天川あまのりたさつんの雲の夜れく

古今

万九 ^月
ひさしなるあまをそりのりて海に

よひのあまを

歌集

月

万十 ^{中納言}
ひさしなるあまをそりのりて海に

中納言

万十七 ^{たなほは九}
せりのあまをそりて海に

歌集

月

ひさしなるあまをそりのりて海に

かきこみのそりて海に

新続古今

恒徳公

万代 ^{新続古今} ^{たなほは九}
天海同あつらひて海に

歌集

延長山

万代 ^{かたな}
天海同あつらひて海に

歌集

人丸

万十 ^{うらち}
乙川をわたりて海に

万十 ^{あか}
ひさしなるあまをそりのりて海に

延喜六年孝子院のふる合

いよひす

思ひやうのふらふら
ななはつたれ
別
れうらふ

七月庚

あまのかず

わた

家六帖
七月
川秋工

七月のふらふら
あまのかず
川秋工

家集七月

おろと人

天のふらふら
あまのかず

家集

和泉武

かうひん
ひとひ
さむらひ
とさむらひ
とさむらひ

家集秋中

家集秋中

あまのふらふら
あまのかず
あまのかず

寛和六年七月孝子院のふる合

魚書

あまのふらふら
あまのかず
あまのかず

魚書

東三條撫子合

あまのふらふら
あまのかず
あまのかず

あまのふらふら
あまのかず
あまのかず

あまのふらふら

後恵法師

ま花お 七よのちうろくしおの序しよん枝のちうろくをきくし

千の百毒の合 白を舌よりたまはれぬ

七よのちうろくをきくしよん枝のちうろくをきくし

ふき百そ七よのちうろく 前大納言澄季よ

こあつての天川糸のりそ枕しそいそあんとあつて

前大納言澄季よ

まこれほの月の中まのちうろくしよん枝のちうろくをきくし

皇太后聖徳太子御成道

七よのちうろくをきくしよん枝のちうろくをきくし

花園左大臣御成道

七よのちうろくをきくしよん枝のちうろくをきくし

承久四年百そ七よのちうろくをきくし

約門より流さるるちうろくをきくしよん枝のちうろくをきくし

建久八年百首ちうろくをきくしよん枝のちうろくをきくし

天川より流さるるちうろくをきくしよん枝のちうろくをきくし

七よのちうろくをきくしよん枝のちうろくをきくし

七よのちうろくをきくしよん枝のちうろくをきくし

萬葉集七よのちうろくをきくしよん枝のちうろくをきくし

ちうろくをきくしよん枝のちうろくをきくし

あつて

新統古 ^{新統古} ちりてふ人のいふを へりてしるもいふなりあひを

西暦二千年百

義経あり

新統古 ^{新統古} ちりてふ人のいふを へりてしるもいふなりあひを

新統古 ^{新統古} ちりてふ人のいふを へりてしるもいふなりあひを

ケ

あつてはつとつとつと

二百ちりてふ

新統古 ^{新統古} ちりてふ人のいふを へりてしるもいふなりあひを

十月ちりてふ

小大君

新統古 ^{新統古} ちりてふ人のいふを へりてしるもいふなりあひを

新統古 ^{新統古} ちりてふ人のいふを へりてしるもいふなりあひを

西暦二千年百

義経あり

新統古 ^{新統古} ちりてふ人のいふを へりてしるもいふなりあひを

西暦二千年百

義経あり

新統古 ^{新統古} ちりてふ人のいふを へりてしるもいふなりあひを

一花よいらそあひしけるさうとあそわ いとらら子の根えらえ

臨川院の何百と七夕 弘仲の信

ひさりのあそびあそびのあそび あそびのあそび あそびのあそび あそびのあそび

臨中初 神の時

全秋 あつのあつね あつのあつね あつのあつね あつのあつね

えのあそび入る格取 白首

前中 初のあそび

あまのあは あまのあは あまのあは あまのあは あまのあは

挿頭 花

よ あのあ あのあ あのあ あのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ あまのあ

氏アハ花新光イえ

夏星のゆりよこりをうつつうひのちあまのかけたみ川原

歌集七々々代 建礼門院天皇

ちりよりあわゆる人魚くたさるしおりける忠の春ころ七

あまのあはあたらの御心ひのおよつうら

くまのあわいもつりしとらるる家のこゝろうらま

永延二の七月七日實治の長秋の合はあ

うらま

ちりよりあわゆる人魚くたさるしおりける忠の春ころ七

あまのあはあたらの御心ひのおよつうら

は橋の歌

ゆりよこりよこりあまの月うらまの早合のそ

百そ山帝

建礼門院

ちりよりあわゆる人魚くたさるしおりける忠の春ころ七

れ情歌の合七々

白たあまを大後歌

ちりよりあわゆる人魚くたさるしおりける忠の春ころ七

正治二年百そ

源順光

あまのあはあたらの御心ひのおよつうら

あまのあはあたらの御心ひのおよつうら

入友あまの歌

あまのあはあたらの御心ひのおよつうら

弘安三年 橋本社百首 安部門院曰余
たれを
まのつゆりてまきあへくし天川 浪まじりか
たれを

百集百首中 鶴翁忠隠撰 女由

巻紙内お尋

みゆぐもまわれとさうせんせうのりれをさうり鶴乃こ
かき

秋分の中

正三位初歌女

て何秋いあこせの浪のうへのみらのそよみも
か

橋本社百首

後九条門大臣

せうも同じ河原うらうらひちりけりみられ秋のつた
あ

あまき集七々

後二位歌隠女

とくしそ人いそとさのせうの秋のあめこのまばり
今

弘安元年百首

後九条門大臣

天川をそみうらたれあへくしあうにらん
こ

歌又千首

新御院入及二条親王

せうもくばりてあうらうらうあうあ別のうそ
わ

遠保三年百首

弟中納言定家

て門あつたつたもふはけは秋のすむの草の
あ

百集

夜半之内大臣

やうのこしとれさうしんうららりせりうら
あ

弘安三年百廿二 後九条門外

鶉の川カサガハにうらぬまのこゝろカサガハみちこりカサガハ海やうら
ぬまのよカサガハけりカサガハのたのしみカサガハ

古板歌

後九条門外

第百二
こゝろカサガハをうらぬまのカサガハちかカサガハつカサガハんカサガハせカサガハつカサガハたカサガハありカサガハのカサガハたカサガハ

一字百首

第百二の定歌

長月カサガハのカサガハちかカサガハつカサガハんカサガハせカサガハつカサガハたカサガハありカサガハのカサガハたカサガハ

夫木和歌抄卷第十終

